

平成28年度 産前・産後サポート事業 事例集



- ・事例には、国庫補助金の交付対象とならない自治体独自の判断で実施している取組も含まれています。
- ・国庫補助金の交付を受けて事業を実施する場合には、必ず、母子保健衛生費国庫補助金交付要綱及び母子保健医療対策総合支援事業実施要綱により、交付対象となる事業の範囲を確認してください。

平成28年度 産前・産後サポート事業 事例集について

産前・産後サポート事業については、妊産婦等が抱える妊娠・出産や子育てに関する悩み等について、助産師等の専門家又は子育て経験者やシニア世代等の相談しやすい「話し相手」等による支援を行い、家庭や地域での妊産婦等の孤立感の解消を図ることを目的としています。

産前・産後サポート事業の推進を目的として、現在同事業を実施している市区町村の取組内容を事例集としてとりまとめましたので、ご紹介します。

自治体(市区町村)	目次(スライド番号)
青森県 鯉ヶ沢町	3 ～ 6
岩手県 遠野市	7 ～ 10
千葉県 習志野市	11 ～ 14
東京都 文京区	15 ～ 18
富山県 高岡市	19 ～ 22
静岡県 伊東市	23 ～ 26
三重県 津市	27 ～ 30
大阪府 堺市	31 ～ 34
山口県 周南市	35 ～ 38
鹿児島県 奄美市	39 ～ 42

青森県鰺ヶ沢町

青森県鰺ヶ沢町

地域の概要

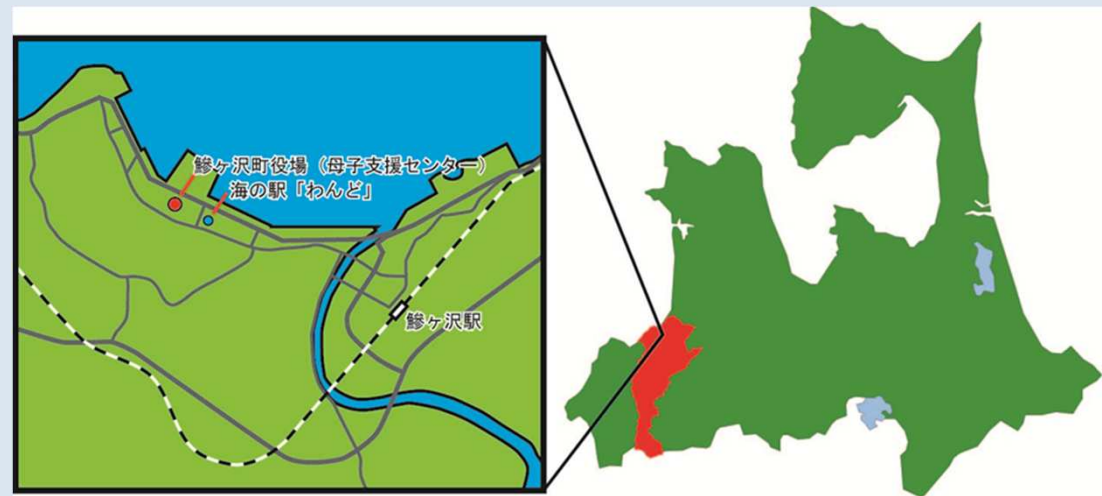
- ・人口 : (10,499)人
平成29年1月31日現在
- ・年間出生数 : (47)人
平成28年
- ・その他

青森県の西海岸に位置し、およそ東西22km、南北40kmにおよび総面積は343.08K㎡。

北は日本海に臨み、南はクマゲラの生息地として知られる世界自然遺産の白神山地を有し、秋田県に隣接している。

市街地は海岸線に沿って形成されているほか、町土を流れる赤石川、中村川、鳴沢川の流域におよそ40の集落が散在している。

町土のおよそ8割が山林で占められ、豊かな自然を象徴している。



概況

1 場所: 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字本町209-2 TEL 0173-72-2111
鰺ヶ沢町役場内 福祉衛生課 母子支援センター

2 実施体制 (1)担当者: 助産師 (2)人数: 4人 (助産師2人、事務員2人)

3 設置開始時期: 平成27年4月(前段となる母子支援センターとしては、平成21年5月から開始)

取組内容

○ママ友を作ろう事業…参加型

婚姻と同時に当町への転入してきた妊産婦や近所に子育て世帯がなく、気軽に相談できる友達がない場合、離乳食教室やベビーマッサージなどを兼ねて友達(ママ友)を作る機会を提供しています。また、当センター主催の妊産婦・乳幼児向けのイベントや鰯ヶ沢町子育てサポートセンター(サポセン)主催の「サポセンサロン」への利用案内も行います。とくに離乳食教室では、主に初めての離乳食スタートとなる初産婦を対象に実施しますので、月齢の近い乳児たちを持つママたちの顔合わせの場になり、子育て情報の共有やママ友のメール交換の場として年2回を実施しています。ここでは、助産師や栄養士、子育てサポートセンターのスタッフが対応しますので、離乳食以外の相談の場となっています。町の健康増進のための「0歳からの食育」にも期待されている事業です。

○母子支援ヘルパーが行うママサポート

地域の育児経験のある子育てに協力できる方を募り、妊娠出産と育児の講座を行い母子支援ヘルパーを養成、認定を行います。大切なお子様を安全に安心した環境で保育を行います。

○ベビー用品リユース事業

取組の評価(取組の効果や課題等)

◆効果 産科医療機関退院直後からの母体の健康面の不安や新生児の育児・発育に関しての悩みや不安が軽減されている。助産師による訪問ケアにより、産科へ通院しなければいけない事例(児の発育不安、黄疸チェック、乳腺炎の疑い等)が減少し、母子の通院にかかる負担が軽減されている。

◆課題 助産師、母子支援ヘルパーの確保と産科医療機関とのスムーズな連携、受け皿の体制構築。

◆ 取組の経緯、開始にあたって調整や工夫した点

- ・平成15年に町立病院から産科がなくなり、最も近い産科医療機関は、車で40分以上要する。(五所川原市)退院後、母体の産後回復が不完全な状態で児の体重把握や黄疸チェック、乳房ケアの為に長時間もかけて通院・受診をしなければならず母体や新生児への負担が大きい。そこで、平成21年に助産師を配置した「鰯ヶ沢町母子支援センター」を役場内に設置し、母子に寄り添うサービスをスタートさせた。
- ・専門職である「助産師が無料で訪問ケアをする」ということが地域に浸透するまで、PRや口コミでの情報拡充を必要とした。

◆今後の展望

産科医療機関から退院後、医療機関や他関係機関と連携を図りながら、訪問型のきめ細やかなサービスの提供は必要であり、里帰りも含め広域的なニーズもあることから、それらに対応できる体制の構築を考える。

その他

○産科医療機関との連携強化事業

妊娠届の際に配布した「妊産婦連携カード(母子支援センターの事業内容を記載)」「(母子手帳へはさむ)」を、産科医療機関へ受診の際、提示してもらうことにより、産科医療機関に対し当センターの存在や事業内容を認識してもらうとともに相互の連携(情報交換など)強化を図り、退院後の受け皿としてスムーズなケアの実施につなげています。当センターは、町役場の中のひとつの部署として存在しているため、自治体として多方面(母子保健担当部局、児童福祉部局、教育委員会部局)との連携が取れている。青森県と青森県医師会で実施している「妊婦連絡票」により、妊婦の状態については母子保健担当部局(保健師)と情報を共有できています。

○一時預かり保育・病後児保育(有料)

母親が赤ちゃんを預け、安心して買い物や美容院などを利用できるように1時間からの低価格利用料を設定しています。急な場合は、当日でも利用が可能な体制づくりをしています。病後児保育では、保育所の利用ができない期間の就労ママたちに好評です。担当には、看護師の資格を持つ母子支援ヘルパーを配置します。

○町総合検診における無料託児事業

○産前・産後の家事援助(有料) 町の総合検診を受ける場合に、乳幼児の託児を無料で利用できます。若い家族の検診受診アップの効果も期待できます。産前では、つわりや切迫流産等による家事サポートを行います。また、出産後では身体的な負担軽減を図るため核家族等の日常生活をサポートします。妊娠後期に利用者と助産師が家事援助計画を話し合い、担当の母子支援ヘルパーを交えて詳細な家事や炊事の計画をします。

○乳児すこやか支援事業(おむつ現物支給)

○担当助産師の配置…パートナー型

妊娠から出産・子育てまでトータルして母子を担当する助産師を配置。産科医療機関、町保健師、関係機関との連携を図っています。

- ・出産付添援助…急な破水や陣痛のために家族が不在等に対応します。
- ・安産レッスン個別指導…陣痛が始まってからの過ごし方や呼吸法、産痛が楽になる補助動作を実地指導します。
- ・母乳育児のための乳房自己ケア指導…37週から行う乳房モデルを使ってセルフケアの方法を説明します。
- ・沐浴実技指導…自宅で沐浴する方法を個別の状況に合った方法で説明します。
- ・妊娠から出産後1年までの母子相談…母親と赤ちゃん、家族の全般に対応した相談を携帯電話メールで行います。



訪問先での沐浴指導



訪問先での様子

岩手県遠野市



岩手県遠野市

地域の概要

- ・人口 : (28, 228)人平成29年2月1日現在
- ・年間出生数 : (163)人 平成27年
- ・その他

岩手県を縦断する北上高地の中南部に位置し、「遠野物語」に代表される歴史と文化、豊かで美しい広大な自然は、日本の原風景として全国の多くの人々に親しまれている。

平成14年より市内にお産できる施設がなくなり、1時間以上かかる遠隔地の医療機関へ通院しなければならない状況が続いている。

平成22年国勢調査によると、年少人口(0～14歳)比率11.4%、65歳以上人口比率34.3%と全国平均より少子高齢化が進展している。



概況

1 場所: 岩手県遠野市松崎町白岩字薬研淵4番地1
遠野健康福祉の里 健康福祉部 保健医療課 母子保健係 遠野市助産院「ねっと・ゆりかご」 TEL 0198-62-1103

2 実施体制 (1)担当者: 助産師 (2)人数 3人(助産師2人 臨時事務職員1名)

3 設置開始時期: 平成28年4月

岩手県遠野市

取組内容

市の職員である助産師2名と母子保健係の保健師が連携し、市営の遠野市助産院「ねっと・ゆりかご」において、産前産後サポート事業を実施している。

- ①**妊婦サポート**: 妊娠中の体調の変化やマイナートラブル等の健康相談を無料で実施している。相談用電話は助産師直通の専用回線としている。
- ②**妊婦訪問**: 市内の全妊婦を対象に、分娩開始と病院へ向かうタイミング・緊急時の対応について個別指導を実施している。訪問時に医学的ハイリスク(急速追娩等)・社会的ハイリスク(育児支援者の有無・虐待・育児不安)のチェックを行い、医療機関への情報提供及び産後の育児支援につなげている。
- ③**退院後の早期家庭訪問**: 新生児全戸訪問とは別に、要支援者、医療機関から依頼があるケース(生後2週間健診を含む)等に、退院後の母体回復の確認、スムーズに育児が行えるよう訪問指導を行い、新生児全戸訪問、産後ケア事業へつなげている。
- ④**健康教育**: 妊婦教室(毎月1回 妊娠・分娩について)、ファミリー教室(年6回 沐浴・育児について・バランス栄養食の試食)、乳幼児救急蘇生講習会(年1回)を開催し、妊娠分娩について知識を高めるとともに、子育てに関わる父親・祖父母等の意識付けを行っている。
- ⑤**産後リフレッシュ事業**: 産後4か月以降の母親を対象に、産後ヨガ及び親子ヨガを実施し、リフレッシュと母親同士の交流を図っている。特に、EPDS高得点者や、3・4か月健診等で気になる母子には参加を促している。

取組の評価(取組の効果や課題等)

《効果》

- 母子健康手帳交付時面談において約3～4割の要フォロー者を把握し、妊娠中から関わりを持つことができている。
- 母子健康手帳交付者の約65.0%の妊婦が助産院に登録している。妊婦訪問等の指導実施率は92.9%となっている。
- 医療機関まで遠いため、妊娠中から産後まで気になる症状など気軽に相談できる場所となっている。
- 当市実施の産後アンケートでは助産師・保健師から十分なケアが受けられ「妊娠・出産に満足している人」の割合は92.4%である。
- 支援が途切れることのないように、医療機関等からの訪問依頼に早期に対応している。

《課題》

- 妊娠届出時、81.5%が就業しており、就業状況により産前・産後休暇中の短期間でのアプローチとなる。
- 経済困窮・生活スキルの低さを抱えるケースもあり、指導・ケア以外の支援を開発する必要がある。

岩手県遠野市

その他

◆ 取組の経緯、開始にあたって調整や工夫した点

市内において、お産できる医療機関がないため、遠隔地の医療機関へ通院する妊産婦の安全と不安軽減を図るため、平成19年12月遠野市助産院「ねっと・ゆりかご」を開設。市の職員として助産師2名を配置し、妊娠・出産に関わる支援体制を整備している。岩手県が整備する「県周産期医療情報ネットワークシステム」を活用し、医療機関との情報共有を図っている。

◆ 特色・PRポイント

産後ケア事業について、乳児ケア(体重測定・黄疸のチェック・沐浴)及び産婦ケア(乳房管理・授乳指導等)をアウトリーチ型で、実施している。

市単独事業として、市外に通院する妊産婦への交通費の助成や、助産師による胎児心拍モニタリング・超音波検査を実施し、不安の軽減に努めている。

◆ 今後の展望

平成29年度は、助産院及び施設の一部を改修し、妊娠・出産・子育てに関する窓口の一本化を図るとともに、産後ケアのアウトリーチ型に加えデイサービス型の支援も提供できるよう環境を整備する予定である。

指導・ケアの他に、地域での見守り・家事支援の体制づくりを検討したいと考えている。



助産師の健康相談



パパとママの
乳幼児心肺蘇生講習会



ファミリー教室での沐浴指導
とバランス栄養食の試食



産後リフレッシュ事業 産後ヨガ
とその後の参加者交流会¹⁰

千葉県習志野市

千葉県習志野市

地域の概要

・人口 : (172, 923) 人
平成28年9月30日現在

・年間出生数 : (1, 437) 人
平成27年

・習志野市は、東京からほぼ30km圏内にあり、東は千葉市、西は船橋市、北は八千代市に接し、南は東京湾に面している。地形は、東西8.9km、南北6.2kmで、内陸部の自然地形と、平坦な埋立地からなり、面積は20.97km²と、県内で4番目に小さく、人口密度は、3番目に高い、非常にコンパクトで、保健活動がしやすい市



概況

1 場所: 谷津ヘルスステーション(参加型: ママ・パパになるための学級4課)
健康支援課(パートナー型: 産後サポート電話相談)

2 実施体制 (1)担当者: 保健師・助産師 (2)人数: 参加型: 地区担当保健師1人(輪番で担当)、
パートナー型: 日々雇用助産師4人、地区担当保健師

3 設置開始時期 平成28年4月

千葉県習志野市

取組内容

習志野市では、妊娠届出時及び妊婦と4歳未満の転入者に、保健師等が面接しながら母子カルテを作成し、地区担当保健師が発育・発達・養育面を中心としたプランの作成、経過の把握、評価し、産前から就学時まで切れ目のない支援を行っている（「習志野版ネウボラ」）。平成28年度は、特に産後の支援を強化するために、（1）産後サポート電話相談（パートナー型）、（2）ママ・パパになるための学級4課（参加型）を切れ目のない支援に位置づけた。（併せて、産後ケア事業宿泊型を1月から開始している。）

（1）産後サポート電話相談事業としては、産後1～2か月の時期に、①新生児訪問対象者（第1子・第2子以降のハイリスク者及び希望者）世帯には、地区担当保健師等が電話による相談と助産師訪問のコーディネートを行い、②新生児訪問の対象ではない世帯や対象であっても訪問依頼連絡のない世帯には、日々雇用助産師や地区担当保健師から電話をする。（「産後うつの二質問法」を用いた産後うつのスクリーニングを実施）

（2）ママ・パパになるための学級4課（1～3課は妊娠中に受講。対象は主に初産婦とパートナー）として、生後2か月前後の児と産婦（とパートナー）を対象として、グループ健康相談や仲間同士の情報交換、また、後輩妊婦（とパートナー）への助言を行う。

取組の評価（取組の効果や課題等）

（1）産後サポート電話相談は、母子の心身の状況を把握することで、不安の軽減や産婦の自己肯定感の向上を図り、妊娠届出時（妊娠期）の面接ではフォローアップされなかった潜在するリスクや新しいニーズを把握し、早期支援につなげることができ、切れ目のない支援の強化につながった。平成28年度新規事業にも関わらず、受け入れが良好であることから、産後間もないこの時期は誰もが不安な時期であり、原則全員に助産師や地区担当保健師という専門職がアプローチすることは、対象のニーズにも合った事業と評価している。

（2）ママ・パパになるための学級4課については、グループ健康相談や仲間同士の情報交換をすることで、育児不安やストレスの解消につながっている。また、後輩妊婦（とそのパートナー）へ自分の育児を振り返りながらアドバイスをすることで、自己肯定感を高めることにつながっている。

千葉県習志野市

その他

◆ 取組の経緯、開始にあたって調整や工夫した点

平成26年度に「母子保健 “切れ目ない支援”マニュアル」をまとめ、体系を「見える化」し、国の動向を踏まえた上で、「強化できる事業」を明確にして、産後サポート事業と産後ケア事業を開始した。

◆ 特色・PRポイント

ママ・パパになるための学級4課については、学級自体を妊娠期から産後までを意識して、平成18年度から、3課の妊婦との交流もできる場として実施している。

電話相談は、産後間もない不安のある時期に助産師等の専門職が、アプローチできる。

◆ 今後の展望

「妊娠・出産」という、人生のターニングポイントであるこの時期に、妊産婦が自己肯定感をしっかり持てるように、またそれをパートナーが支えられるように、今後も意識して支援していきたい。

また、児の生涯を通じた切れ目ない健康づくりを見据えた支援を行うと同時に、親たちの健康づくりや生活習慣の改善等を意識した支援ができる体制づくりの構築を目指していきたい。

ママ・パパになるための学級
4課風景



東京都文京区

東京都文京区

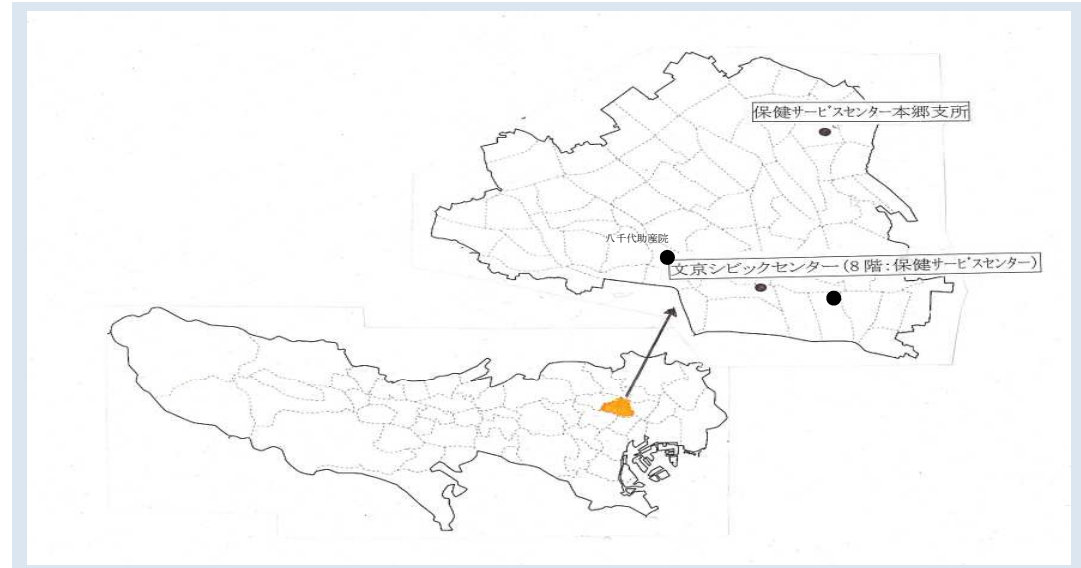
地域の概要

・人口 : (211,451) 人
平成28年4月1日現在

・年間出生数 : (1,982) 人
平成27年

・その他

文京区は、東京23区のほぼ中心に位置し、台地と坂、台地に囲まれた谷から成り立っている。江戸の面影を色濃く伝える史跡や文化遺産の多い歴史的なまちであり、また、伝統ある大学や多くの学校のある文教の地としても知られており、近年は、出生数の増加や子育て世帯の転入を主な背景とした人口増が続いている。



概況

1 場所: 保健サービスセンター(文京シビックセンター内)
保健サービスセンター本郷支所
八千代助産院(相談拠点のみ)

文京区春日1-16-21
文京区千駄木5-20-18
文京区音羽1-19-18

2 実施体制 (1)担当者:母子保健コーディネーター(地区担当保健師)、助産院に勤務する助産師等、管理栄養士、歯科衛生士、主任児童委員、民生委員
(2)人数:母子保健コーディネーター20人

3 設置開始時期:平成27年4月

東京都文京区

取組内容

【ネウボラ相談】【アウトリーチ(パートナー)型】

産前・産後の健康や子育ての相談に、電話、面談、メールで保健師・助産師が応じている。ネウボラ拠点の一つである助産院では、区役所が閉庁している年末年始を含む土日・祝日でも、助産師が相談に応じることができる。

【サタデーパパママタイム】【デイサービス(参加)型】

土曜日に子育てひろば等の身近な会場で、0～3か月の乳児を育てる父親を含めた親同士の交流事業を行い、子育ての仲間づくりを促すことで孤立感の解消を図るほか、保健師や助産師が子育てミニ講座や保護者からの健康・育児に関する相談に応じている。

【産後セルフケア教室】【デイサービス(参加)型】

産婦が産後早期に体力を回復し、心身の健康を保持増進することを目的に、産後2～3か月の母親と乳児の交流事業を行っている。バランスボールエクササイズやコミュニケーションワーク、セルフケアプログラムの実施により、体の回復に加えリフレッシュや仲間づくりを促している。

【その他】 従来から以下の事業も実施している。

0～3か月の乳児と保護者の交流(おしゃべりルーム、ぷちみるく)

4～11か月の乳児と保護者の交流(あつまれフレッシュママ、みるくらぶ)

取組の評価(取組の効果や課題等)

- 妊産婦やその家族が身近な場所で専門的な相談ができ、必要なサポートを得ることで安心して妊娠・出産・子育てに臨める。
- 相談拠点として助産院を加えたことで、365日相談ができ、母親たちの安心につながる。また、公的機関以外も相談拠点とすることで相談しやすくなっている。引き続き緊密に連携するための体制確保が必要である。
- 父親が参加しやすいよう、土曜日に身近な場所で交流事業を行うことで、父親も含めた子育ての仲間づくりにつながっている。

東京都文京区

その他

◆ 取組の経緯、開始にあたって調整や工夫した点

核家族化や地域のつながりの希薄化等により、産前産後のサポートを十分に得にくい、身近に相談・協力者がいない家庭が増加する中、「産後間もない時期に、授乳やスキンケア、生活リズムの作り方などを気軽に相談できると安心」「パパにも、育児について専門職からの助言が得られる場が欲しい」などの声を受けて、助産院を相談拠点に加えたほか、父親が参加しやすいよう土曜日に交流事業を開催することとした。交流事業の会場は、参加後も継続して利用できるよう、身近な地域にある施設とした。

◆ 特色・PRポイント

助産院を相談拠点の一つに加え緊密に連携することで、行政への相談にためらいを感じる住民にとっての相談の敷居を下げ、その結果、要支援者をより把握できるようになった。

◆ 今後の展望

ネウボラ拠点は、気軽に相談や交流ができる場として住民の理解が進んでいる。また、ネウボラ拠点で妊娠期からの相談を受けていることが広く知られるようになり、他部署・他機関からの連絡が入りやすく要支援家庭の早期把握・早期介入につながっている。

今後はさらに、地域の関係機関に加え、支援を受けた親子が次の支え手となりソーシャルキャピタルの醸成につながるためのしくみづくりと、子どもと親の育ちを支える、普遍的な予防の取り組みを進めていく。



富山県高岡市

富山県高岡市

地域の概要

- ・人口 : 174,252人(平成28年12月31日現在)
- ・年間出生数 : 1,150人(平成27年)

・その他

・市内全28地域に市長から委嘱を受けた95名が母子保健推進員として活動しており、高岡市では高岡市母子保健推進員協議会に産前・産後サポート事業を委託している。

●子育て支援センター 2か所

保育園 39か所、認定こども園 6か所、幼稚園 7か所

●夫婦共働き率が富山県は全国5位(H21年)と高く、1歳前後に職場復帰される方が多い印象である。

参加型の「赤ちゃんにこにこ教室」は、各地域公民館や保育園、子育て支援センター等の市内全域で実施している。



概況

1 場所: 高岡市健康増進課(富山県高岡市本丸町7-25)に高岡市母子保健推進員協議会事務局を置く。

2 実施体制 (1)事務局担当者: 1名(保健師)

(2)母子保健推進員人数: 95名(市内全28地域から選出)

3 事業開始時期: 平成28年4月

富山県高岡市

取組内容

市から委託を受け母子保健推進員協議会は、①7か月児全戸訪問【アウトリーチ(パートナー)型】②赤ちゃんにこにこ教室【デイサービス(参加)型】の産前・産後サポート事業を行っている。

①パートナー型...全母子保健推進員は受け持ち地区の生後7か月児のいるすべての家庭を訪問している。保護者が孤立感を感じることなく子育てできるよう身近な地域の遊び場や行事、赤ちゃんにこにこ教室や子育て支援センター等を紹介、良き相談相手として親の育児不安の軽減を図っている。

②デイサービス型...地域の公民館や保育園等において「赤ちゃんにこにこ教室」を開催している。赤ちゃんにこにこ教室では乳児の保護者が気軽に地元で情報交換ができる場として、保護者の交流を促進し育児不安の軽減を図っている。教室の開催にあたっては地域の婦人会や健康づくりボランティア、民生児童委員等とも連携協力している。教室の周知は広報、子育て支援アプリ「ねねット高岡」を活用したり、3か月児健診、保育園・子育て支援センター・各種訪問などでのチラシ配布で広く案内している。

〔H27実績 7か月児訪問1,209件 赤ちゃんにこにこ教室 69回開催、901組1,791人参加〕

取組の評価(取組の効果や課題等)

①パートナー型である7か月児訪問事業では毎月市に訪問結果を報告し、必要に応じて市保健師から母子の不安等に対し支援を行っており保護者から「相談しやすい」「訪問して下さった推進員さんに、地域のスーパー等で会った時に子どもの成長と自分(母)の頑張りをねぎらってもらえて嬉しかった」といった声が寄せられている。

②デイサービス型である赤ちゃんにこにこ教室の参加者のアンケートでは、例年の参加動機で多いものは「外出の機会(気分転換)を得たい」「月齢の近い子どもと会いたい」「子育ての知識を得たい」等であり、95%以上の保護者が参加目的を達成できたと回答しており、肯定的な意見を多数受けている。

富山県高岡市

その他

◆ 取組の経緯、開始にあたって調整や工夫した点

これまで母子保健推進員協議会では事故予防・むし歯予防の周知に力を入れて7か月児訪問・赤ちゃんにこにこ教室を実施していた。今回産前・産後サポート事業として実施するにあたり、保護者の子育て相談や、保護者同士の仲間づくり、妊産婦の心身不調時に相談できる場（市健康相談室や子育て支援センター等）の紹介などに重点を置き、育児不安の解消や母子の孤立感軽減に努めている。

◆ 特色・PRポイント

- ・7か月児訪問は全戸訪問しており、市に毎月その報告行っている。また訪問時不安が強かったり専門的な質問があった場合は母子保健推進員が地区担当保健師に連絡し、保健師による指導相談につなげている。
- ・赤ちゃんにこにこ教室では母子保健推進員が主体的に教室の計画、運営、会計、報告等を行っている。また地域の実情に応じて、保育園、子育て支援センター、児童民生委員、婦人会、

他のボランティア等と連携して開催している。

- ・高岡市と母子保健推進員協議会が協議しながら、母子保健推進員に向けた研修会・講演会を開催し、会員の資質の向上に努めている。今年度は小児発達専門医を講師に招き研修会「スマホに子守をさせないで」を実施したほか、富山県黒部市母子保健推進員連絡協議会との交流会を行い活動の充実に向け検討する機会とした。

◆ 今後の展望

高岡市は、今後も母子保健推進員協議会と協議連携し、母子保健推進員の資質向上に努めていきたい。また母子保健推進員の活動について認知度を向上させ、産後は一人で頑張らないで地域全体で子育てを温かく見守り支える子育てに優しい高岡市を目指したい。



◆ 7か月児全戸訪問の様子



◆ 赤ちゃんにこにこ教室の様子

静岡県伊東市

静岡県伊東市

地域の概要

- ・人口 : (70, 114) 人
平成29年1月末現在
- ・年間出生数 : (339) 人
平成27年
- ・その他
高齢化率: 39. 2% (平成28年4月1日現在)
合計特殊出生率: 1. 49 (平成24年度)
若年出産率: 3. 5% (平成25年度県1. 2%)
育児不安、育児ストレスを抱える親の率は、増加傾向
ゆったりとした気分で子どもと接する時間があると答えた人の割合 77. 7% (平成26年度)



概況

- 1 場所: デイサービス型(参加型): 伊東市川奈 ダイビングスクール「STAY DREAM」 (川奈駅から徒歩5分)
アウトリーチ型(パートナー型): 事務所を健康保健センターに設置、各家庭を訪問。(平成28年3月事務所移転予定)
- 2 実施体制 (1)担当者: 伊東市委託事業としてNPO法人子育てネットワーク・ゆうが実施 (2)人数 35人
精神保健福祉士、保育士、栄養士、看護師(保健師)各1名、ボランティア1~2名
上記以外のボランティア(家庭訪問型子育て支援ビジター)4~5名
- 3 設置開始時期: 参加型 平成27年9月 アウトリーチ型平成25年12月

静岡県伊東市

取組内容

様々な理由により妊娠出産、育児に対する不安や負担を抱えている妊婦及び乳幼児を抱える親に対し、不安負担の軽減、孤立化防止やひいては、虐待予防のために、子育て経験者で8日間の傾聴等の支援技術習得研修を受講した子育てボランティア(ホームビジター)が、訪問型による個別支援や参加型による小集団の支援を医療機関や行政と連携しながら実施する。

【参加型:子育てサロン(海カフェ・ゆう)事業】

妊産婦等が抱える妊娠出産や子育てに関する悩み等について、専門家による相談支援や、子育て経験者やシニア世代等の子育てボランティア(ホームビジター)が相談しやすい「話し相手」等による相談支援を行い、家庭や地域での妊産婦及び子育て中の保護者等の孤立感の解消を図り、地域ぐるみで子育て中の親子を次に掲げる支援をする。

＜支援内容＞

- ・育児不安等の保護者の訴えに対する傾聴及び助言
- ・食事の準備、洗濯及び掃除等を協働して行う家事支援
- ・乳幼児の世話、沐浴等を協働して行う育児支援
- ・外出の付添い等の移動支援等

【訪問型:家庭訪問型子育て支援(ホームスタート)事業】

調整役のオーガナイザーが、乳幼児の性格及び発育状況並びに居住場所、保護者の生活状況等を把握し、当該乳幼児や家庭に適した育児、家事などの支援計画の作成及び関係機関との調整を行う。その後ボランティア(ホームビジター)が定期的に家庭訪問し、次に掲げる支援をする。

＜支援内容＞

- ・妊産婦等の悩み等や産前産後の心身の不調に関する相談支援、子育て中の養育者の相談支援や乳幼児のケアの方法及び育児に関する知識や技術の提供(ア 看護師等の専門職による相談支援 イ 研修を受けた子育てボランティア(ホームビジター)が悩み相談に対応)
- ・子育てボランティアに対して、産前産後サポートに必要な知識を付与する講習会の開催
- ・事業の実施施設に係る設備整備及び関係機関との連絡体制に関すること。事業の実施前後の評価を行う。
- ・乳幼児は、保育士が遊びを提供したり、乳児は子育てボランティアが関わる。
- ・カフェをイメージして、お茶やお菓子、手作りのスープ等を提供して、母親のリラックスを図る。

取組の評価(取組の効果や課題等)

【効果】

効果検証は、または規定の評価方法やエジンバラ産後うつ病質問票等の指標を利用している。

育児や家事、パートナーを含む家族関係に悩みを抱え、孤立していた母子や出産直後に抑うつ状態にあった母親に対して、早期に介入することによって不安負担感が軽減される等、すべてのケースにおいて課題に対する改善がみられた。また母子保健や医療機関との連携によって早期の個別支援に繋がる。早期支援により、事後フォローの参加型支援に繋がり、最終的に拠点型地域支援事業の橋渡しの役割を担うなど、孤立防止にも繋がっている。個別支援と集団支援の両方を利用することで、母親の自己回復力に効果があると考えられる。

【課題】

定期的に母子保健担当保健師とNPO法人の会議を開催しているが、個別ケースの情報共有をする時間がない。利用希望者が増加傾向にあり、人的・物理的に規模を広げることが困難な状況。さらなる、会議や受け皿の充実を図る必要がある。

静岡県伊東市

その他

◆ 取組の経緯、開始にあたって調整や工夫した点

- ・研修受講を義務化することによる支援ボランティアの質の向上
- ・支援者同士の支援体制
- ・保健師、医療機関、子育て支援団体、行政との連携
- ・地域に根ざした場所を利用するとともに地域住民の協力を得る。
- ・親子でほっとできるスペースの提供を狙った。

◆ 特色・PRポイント

- ・山や海の自然に恵まれた環境で、その特色を生かした場所での実施
- ・親子に対し、第2の実家となるようなアットホームな関係性を重視
- ・妊婦からの支援が可能となるよう、医療機関に協力を得て研修会を実施した。

◆ 今後の展望

- ・各地域で実施
- ・誰でも何時でも利用できる環境の整備
- ・地域性を活かした支援になるよう、地域住民の理解を得られて、誰もが利用者でもあり支援者ともなれるような仕組みづくりを行っていく。



海Caféゆう 左: ほっとスペース
上: お昼寝部屋兼授乳室



三重県津市



三重県津市

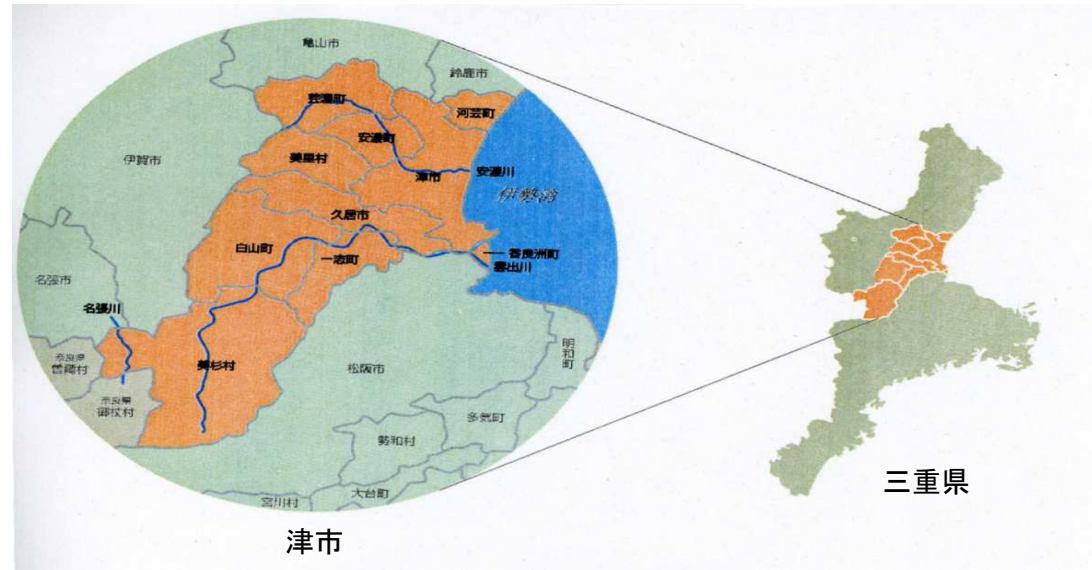


地域の概要

人口 : (281745) 人
 <平成28年12月31日現在>
 年間出生数: (2135) 人 <平成27年>

平成18年1月1日周辺の10市町村が合併し、県内で最大面積を有する新津市となった。三重県の県庁所在地。市東部は県立自然公園に指定された約12kmにおよぶ連続した海岸線があり、南部の三杉地域は「森林セラピー基地」として認定されている。

市中心部は官公庁・大学などの公共機関・大学病院・国立病院機構などが立地しているが、漁業・農林業中心地域および過疎・高齢化が進行している地域など多様な地区特性を有する。



概況

1 実施場所: 子育てひろば開催・教室協力等 … 子育てひろば(3保健センター)、妊婦教室(2保健センター)、
 離乳食教室(4保健センター)、乳幼児健康相談(2保健センター)
 見守り訪問 … 市内全域

2 実施体制 (1)担当者: 母子保健推進員 (2)人数: 80名

3 産前産後サポート事業開始時期: 平成26年11月

三重県津市



取組内容

<子育てひろばの開催>

母子保健推進員は、乳幼児を育てる保護者が気軽に集うことができる交流の場を市内の3保健センターで開催し、妊産婦の悩みを傾聴し相談等に対応している。3つのひろばは、それぞれに特徴があり、①参加者同士のグループワークの時間を設け、ミニ講話を実施する②日頃育児に奮闘している保護者が憩えるように保護者同士のティータイムを設ける③おもちゃを作り一緒に遊ぶなどユニークな内容となっている。各会場月1回開催。

<妊婦教室のグループワークコーディネート>

グループワークで、コーディネーターとして参加者の会話が弾むような雰囲気づくりをしながら妊婦の相談に対応。

<離乳食教室のサポート>

受付の補助、乳児の託児や保護者の仲間づくりのサポートなどを実施。

<乳幼児健康相談の協力>

相談の待ち時間や相談後の保護者に声がけし、仲間づくりのサポートを実施しながら、相談に応じている。

<見守り訪問>

赤ちゃん訪問等で把握した見守りが必要な保護者へおおむね5か月頃まで、見守り訪問を3回まで実施。

取組の評価(取組の効果や課題等)

<取組の評価>

～子育てひろば～

参加者は各会場20～30名程度。ひろばの開催については、母子保健推進員の企画立案のもと、運営されており、気軽に参加できる雰囲気となっている。リピーターも多く、ひろばを通じて交流が始まり、その後も交流している状況がみられる。

～教室・相談事業でのサポート～

母子保健推進員が声かけをすることで、各教室等の進行がスムーズになり、参加者も不安なく参加することができている。

～見守り訪問～

育児に不安を抱いていたり、双子の子育てに悩んでいたりする保護者に母子保健推進員が声かけをすることで保護者は安心して育児に取り組んでいる。

<課題>

子育てひろばの開催場所を増やす。市内の各地区にある子育て支援センター等の利用につなぐしくみづくり。

三重県津市



その他

◆ 取組の経緯、開始にあたって調整や工夫した点

母子保健推進員の活動は、合併前の各市町が行っており、合併とともに、活動を統一して、ひろば活動と訪問活動を展開していた。産前産後サポート事業を実施するにあたり、ひろば活動等の充実をはかり、新たに見守り訪問を導入した。見守り訪問については、推進員に活動目的や必要性を丁寧に説明し、研修もしながら活動への協力を呼びかけた。

◆ 特色・PRポイント

「津市の母子をみんなで支えよう」をモットーに、推進員に「つぼみん」という愛称をつけ、推進員手作りのロゴマークも作成し、母子健康手帳バックや推進員バックに印刷し活動のPRに努めている。



<つぼみん>

◆ 今後の展望

妊娠・出産・育児期の子育てを地域で暮らす母子保健推進員が身近に見守り、気軽に育児の相談等に対応することができるように、母子保健推進員活動がより一層充実できる体制を構築する。

母子保健推進員が地域でいきいきと取り組めるように、継続研修を実施し、推進員同士および保健師との交流の機会をもつなどの活動支援を実施する。

母子保健推進員の養成を毎年行い、推進員の増加をめざす。

母子保健推進員の活動を市民が広く認識するように働きかける。

<子育てひろばの様子>



<ティータイムの様子>



<見守り訪問の様子>



大阪府堺市



大阪府 堺市

地域の概要

- 人口
836,952人
(H29.1.1現在)
- 年間出生数
6,969人
(H27年)
- 合計特殊出生率
1.49(H27年)



概 況

本市では平成26年度に「妊娠・出産包括支援モデル事業」を実施し、以後下記の事業を始めとしたさまざまな子育て支援事業の更なる充実に取り組んでいる。

事業名	実施時期	事業開始	概 況
パパの育児教室	産前	H2年	初めてパパ・ママになる方を対象に子育ての情報提供を行う。パパが参加しやすいように休日に実施。講師は助産師や歯科衛生士で、事業者に委託し実施。
子育てアドバイザー派遣事業	産前 産後	H15年	研修を受講した子育て経験者やシニア世代等の市民ボランティアが子育ての不安や悩みのある家庭を訪問し、相談しやすい話し相手として子育ての相談に応じたり、地域の集いの場につなげるなど孤立を予防する。市直営で実施。
助産師による育児ひろば	産前 産後	H27年	毎月1回、駅前の商業施設内で、助産師が妊娠期から子育て期の母子の健康相談や授乳相談、乳児等の発育発達に関する相談を行う。助産師会に委託し実施。
キッズサポートセンターさかい	産後	H26年	本市と(株)高島屋、(株)ボーネルンドの3者が共同で、親子が「遊び」を出発点に気軽に集い、交流し、相談できる場、さらにまちの賑わいづくりの場として開設している。同じフロアには心理士や大学等による発達相談機能や堺マザーズハローワークもある。
さかい子育てスマイル訪問	産後	H23年	上記子育てアドバイザーが、初めて出産した6～7か月の子どもがいる家庭を訪問し、子育て支援情報の提供や子育ての相談に応じる。市直営で実施。

大阪府 堺市

取組内容

本市では子育ての不安や悩みを軽減し、家庭や地域での孤立を予防するため、家族や地域のボランティアを始め子育て支援団体など様々な機関が連携しながら子育てを支える「おせっかいなまちづくり」をめざしている。

パパの育児教室	毎回定員(各回110組)ほぼいっぱい申し込みがある。本教室の主旨、パパが安心して子育てをしていただけるよう、沐浴やおむつ替え等の実習を多く取り入れ、妊娠中からの口腔ケアや赤ちゃんの事故予防、赤ちゃんの泣きについての情報提供を行っている。またパパ向けのテキストに、パパが自由に記載できるスペースを設け、教室終了後も活用していただけるよう工夫している。
子育てアドバイザー派遣事業	市が募集し、所定の研修を受けた市民ボランティア(子育てアドバイザー)が、子育ての不安や悩みがある家庭を訪問し、育児相談や地域の子育てに関する情報提供を行い、孤立を予防する。また子育てアドバイザーに対し、登録時の研修とは別に、年2回程度不安の傾聴や今どきの子育て等についてのフォローアップ研修を行い、支援力の向上を図っている。
助産師による育児ひろば	休日等に、駅前の商業施設内で助産師による妊娠期から子育て期の不安や悩みに対する相談や情報提供を行っている。予約不要で気軽に参加でき、必要な方は関係機関につなげ、継続した支援を行っている。
キッズサポートセンターさかい	本市が事業主体の「堺市つどい・交流のひろば」では親子が憩い交流できる「えほんの森」や、心理士や大学と連携した発達に関する支援を実施。ボーネルンドが事業主体の「ボーネルンドあそびのせかい」では遊具や運動施設を使い、親子で楽しめる室内あそび場を提供(有料)。高島屋が事業主体の「タカシマヤわくわくプレイス」では子育て応援のためのさまざまなイベントを開催。
さかい子育てスマイル訪問	生後4か月までの全家庭を訪問する「乳児家庭全戸訪問」に加え、第1子が6～7か月になった全ての家庭を子育てアドバイザーが訪問し、子育ての情報提供や育児相談を実施。必要に応じて関係機関と連携し、継続した支援につなげている。

取組の評価(取組の効果や課題等)

○ **パパの育児教室** : H27年度申込678組、参加491組(定員550組)

H27年度まで年間5回開催。申込者が多いため、H28年度から年6回開催。各定員110組

【参加者の感想】

- ・ 今後初めて体験することを先に体験できてよかった。
- ・ パパが頑張ってくれてうれしかった。
- ・ とてとてもになった。もっと時間があってもよかった。
- ・ 実際の体験で、見る、読むだけで感じることができない子育てや妊婦の大変さが分かった。

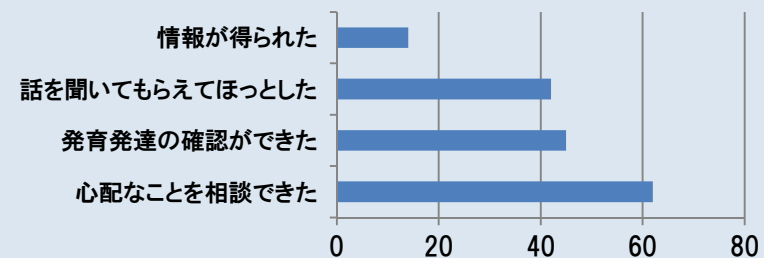
○ **子育てアドバイザー派遣事業** : H29年1月現在登録者532人。H27年度実績では実59家庭に対し、延231回の派遣を実施。

派遣家庭は育児不安や、養育者の育児技術、精神面での課題を持つ方が多く、子育てアドバイザーに話を聞いてもらうなどちょっとしたサポートで育児の不安が軽減されている。また、派遣終了後も引き続き地域で親子を見守っていただいている方もある。

○ **さかい子育てスマイル訪問** : 平成27年度 延3,100件(支払発生分)
事業実施後関係機関との連携や継続支援等につなげたケース 140件

○ **助産師による育児ひろば** : H27年度利用 162組、374人。

【参加者の感想】 (H28年4月～12月アンケートより n=80 重複あり)



○ **キッズサポートセンターさかい** : 堺市つどい・交流のひろば、ボーネルンドあそびのせかい利用状況 計延13.7万人(H27年度)

大阪府 堺市

その他

◆ 工夫した点、特色・PRポイント

従来実施していたさまざまな既存事業を見直し充実させるとともに、地域のボランティアや関係機関と連携し、地域ぐるみの子育て支援をめざしている。また、助産師や子育てアドバイザーが活動する中で把握した支援の必要な方に対しては、適切な支援が受けられるよう関係機関につなげ、切れ目のない支援を行っている。

◆ 今後の展望

- ・ 必要な方が適切に事業を利用できるよう引き続き周知を行う。
- ・ 市民や関係機関の意見を伺いながら、より良い子育て支援に向けて引き続き検討を行う。



パパの育児教室



助産師による育児ひろば



子育てアドバイザー活動



キッズサポートセンターさかい
(えほんの森)

山口県周南市

山口県周南市

地域の概要

・人口 : (146,344) 人
平成29年1月31日現在

・年間出生数 : (1,125) 人
平成27年

・その他

本市は、山口県の東南部に位置し、平成15年に、旧徳山市、旧新南陽市、旧熊毛町、旧鹿野町の新設合併により誕生。

出生率は7.6で、山口県の7.2よりもやや高いが、高齢化率は30%を超え、少子高齢化が進む。



概況

1 場所: 周南市徳山保健センター

2 実施体制 (1) 担当者: 助産師及び保健師、母子保健推進員(※) (2) 人数 4名
(※) 母子保健推進員: 市の委託を受け、子育て中の母親の身近な相談役や保健師とのパイプ役として、地域において家庭訪問や育児サークル等の育児支援活動をしているボランティア

3 設置開始時期: 平成28年6月

山口県周南市

取組内容

【事業名】産後ママのおっぱい&ゆったりサロン

【実施方法】デイサービス（参加）型

【目的】産婦が抱える子育てに関する悩み等について、助産師や保健師による相談支援を行い、家庭や地域での孤立感の解消を図る

【対象】母乳育児や産後の体調に対する不安や悩みがあり、相談支援が必要と保健師等が判断した概ね産後3か月未満の産婦と乳児

【内容】助産師・保健師が、体重や哺乳量の測定、授乳指導（乳房マッサージ除く）等、一人ひとりに寄り添った相談支援を行うとともに、産婦が、グループワークや産婦同士の交流を通じて悩みの共有を図るための情報交換の場を提供。兄弟を連れての参加に対し、母子保健推進員による託児を実施。

【実施頻度】2週間に1回

取組の評価（取組の効果や課題等）

【効果】・個別に相談対応することで、参加者の不安や悩みが解消され、育児の見通しや自信が持てた
・要フォロー産婦の継続支援の場として活用できた
・抱える悩みや子どもの月齢等、参加者に共通点が多いため、交流が生まれやすい
・託児を行うことで、経産婦が参加しやすく、母子保健推進員の役割や活動の周知もできた
・育児相談や子育て支援センター等、他の子育て支援サービスの情報提供を行うことで、サロン卒業後の利用につなげることができた

【課題】・2週間に1回の実施のため、タイムリーな支援が難しい
・継続参加を希望する者が増えており、個別対応のためのマンパワーが不足

山口県周南市

その他

◆ 取組の経緯、開始にあたって調整や工夫した点

産後の母親に多い不安や悩みには、母乳育児や自分の体調等に関するものがあり、「授乳指導がない産科医療機関での出産が18.0%」「3か月児の母乳栄養の割合が60.3%で過去5年間で5%減少」「新生児期の訪問指導実施率が36.0%」という現状から、母乳育児の確立に向けた相談支援体制の整備を行うことになった。

◆ 特色・PRポイント

産後の不安や悩みを退院後早期に把握するため、地区担当保健師による「生後2週間目全戸電話相談」を行い、早期の家庭訪問を実施。訪問時、継続した相談支援が必要と判断した母親へ参加を促している。

◆ 今後の展望

この取り組みを行う中で、参加者から「自分一人が悩んでいるのではないことが分かった」「赤ちゃんを連れて行く居場所があってありがたい」という声が多数聞かれた。産後間もない母親は、日々、不安や悩みを抱きながら育児を行っており、それを共有できる人や場所が身近にないという実態があることから、今後さらに、利用ニーズが高まることが予測される。現在は、2週間に1回、1か所で行っているが、タイムリーな支援に向け、実施頻度の見直しや助産師等の専門職の確保が必要と考える。



鹿児島県奄美市

くわや島ぬ宝

～安心して子育てができる奄美市へ～

鹿児島県奄美市

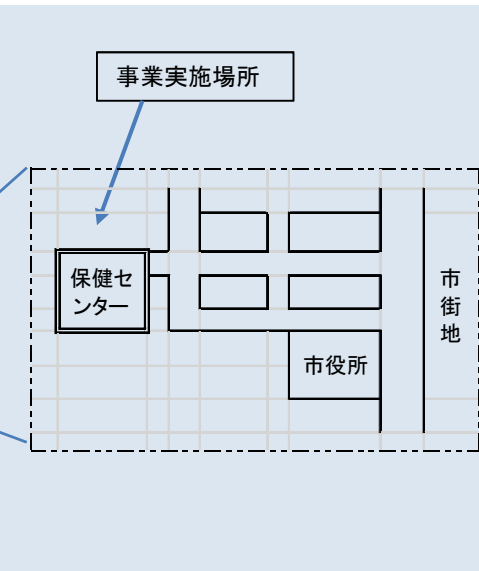
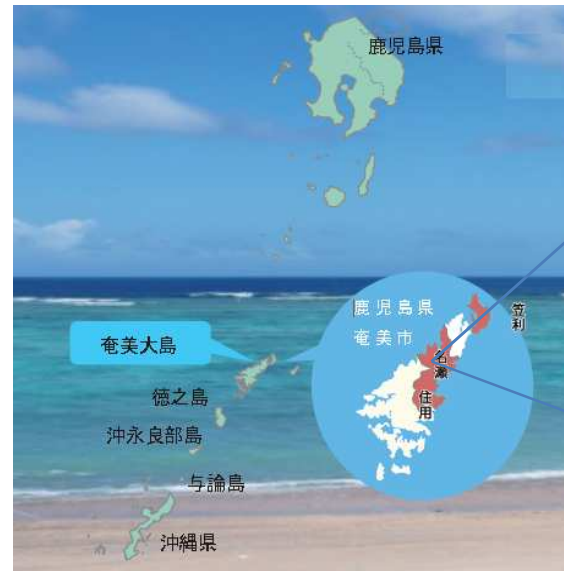
地域の概要

・人口 : (44,251) 人
平成28年12月31日現在

・年間出生数 : (359) 人
平成27年

・その他

奄美市は、鹿児島県本土と沖縄のほぼ中間に位置する奄美大島の中心部にあります。亜熱帯の美しいさんご礁の海やアマミノクロウサギなど貴重な希少動植物が生息し、豊かな自然環境と伝統文化を大切にしまちづくりをすすめています。また、まち・ひと・しごと創生総合戦略の中でも、しあわせの島をめざし、子育て支援に力をいれています。



概況

1 場所: 奄美市保健センター

2 実施体制 (1)担当者: 助産師 ・ 保健師 ・ はぐくみ・育ち見守り隊
(2)人数: 助産師1名 保健師4人 はぐくみ・育ち見守り隊40名

3 設置開始時期: 平成28年4月

鹿児島県奄美市

取組内容

①はぐくみ・育ち見守り隊(通称:黒うさぎおばちゃん)活動・・・パートナー型

研修を積んだ子育て経験者が、地域の妊婦宅を訪問し情報提供や助言により関係づくりを行うことで、出産後も気軽に声をかけやすくなり、地域で孤立することなく子育てができるよう、あたたかく声をかけ見守る子育て応援団。

②はじめてのママクラス・・・参加型

若年ママや育児不安が強く孤立傾向にある母親等、主に妊娠期からの支援や産後ケアを利用した母親を中心に継続支援の必要性が高い母親を対象に月1回実施。教室には地区の黒うさぎおばちゃんも参加し、関係づくりを行ないます。

③じいじ・ばあば・おじ・おばのための子育て応援講座・・・参加型

孫が生まれる祖父母世代のじいじ・ばあば、近所の子どもたちを応援したいおじ・おば、を対象に子育て応援講座を開催。「今と昔の子育ての違い」「先輩ばあばから学ぼう」など自分の孫を含めた地域の子育ての応援団をめざし、子育て世代の身近な応援団となってもらうための講座です。

取組の評価(取組の効果や課題等)

【取組の効果】

○平成28年4月に設置した子育て世代包括支援センターの専任の助産師を中心に妊婦からの早期の支援に力を入れており、妊娠期におけるハイリスク妊婦への丁寧な支援、医療機関との連携により、産後も継続した支援ができてきている。産後ケアや養育支援訪問等との調整を図ることで、本事業を効果的に実施できている。

○地域における子育て応援団として「はぐくみ・育ち見守り隊(黒うさぎおばちゃん)」を公募により募集し、養成講座を経て活動している。本市の抱える課題の共有化を図ることで、行政だけではできない地域でのつながり作りを担っている。母子手帳交付時に妊婦へ地区の黒うさぎおばちゃんを紹介し、声かけを了承してもらった上で訪問を行なうため、妊婦からの早期の関係づくりへつながりやすい。妊婦や子育て世代を対象としたイベントの場においても関係づくりをめざし、地域の応援団としての活動が広がりつつある。

【課題】

○孤立傾向にあたり関係構築が難しい母親に対し、まず個別支援をとおして信頼関係を築いたうえで、産前産後サポート事業につないでいるが、本事業終了後も支援が必要な母親に対しての次の段階の支援の体制作りがまだできていないため、関係機関との協議等を踏まえ、支援体制の構築が必要。

○黒うさぎおばちゃんの地域での活動がスムーズに行なわれるためにも、行政の方で接点を積極的に作っていく必要がある。 41

鹿児島県奄美市

その他

◆ 取組の経緯、開始にあたって調整や工夫した点

本事業は核家族化や地域のつながりの希薄化等による母子保健の課題を踏まえて、「地域少子化対策強化事業交付金」を活用し、妊娠・出産・育児の切れ目のない支援をめざした体制構築事業を踏まえた次の段階として、助産師の配置や地域力の向上、関係機関との連携強化に取り組んだため、スムーズに開始できた。また、行政内の連携や医療機関、在宅助産師等情報の共有を大事にしながら実施している。

◆ 特色・PRポイント

はぐくみ・育ち見守り隊（通称：黒うさぎおばちゃん）は、昔ながらの島のつながりの中での子育てをめざし、誰もが孤立することなく、安心して子育てができるよう見守ります。高校を卒業後ほとんどの子が島外に出ますが、つながりの中で育った子ども達が、また奄美に戻ってくれたらいいなあという思いで活動しています。

* 通称のゆらいは愛情に満ちた子育てをするアミノクロウサギからきています。

◆ 今後の展望

○妊娠から出産・子育てまでの丁寧な支援を強化する。

特に妊娠期からの早期の支援開始について、行政が把握した方以外に幅広く相談等ができる機会を設けていく。気軽に相談できる場所（保健センター以外）の設定や妊娠期の支援強化。

○連携した事業展開

母子保健事業・子ども子育て支援事業・生活困窮事業、また医療機関・在宅助産師等とのより密な連携を図り、継続した支援が行なえるよう情報の共有化を図りながら事業を行なっていく。特に母親の子育て力を引き出す事業を実施したい。

○地域力の推進

地域で安心して子育てができるよう地域ぐるみの子育て支援をさらに推進する。

地域の子育て応援団と一緒に安心して子育てができる奄美市へ



じいじ・ばあば・おじ・おば教室の参加者



地域の子育てイベント

黒うさぎおばちゃん大活躍！



訪問スタイル



市の公式
キャラクター
コクト君